

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2007年7月)

発表日2007年9月12日(水)

～所得収支の黒字拡大で、経常黒字は拡大持続～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 柵山 順子

TEL : 03-5221-4548

		原数値 経常収支				季調値 経常収支			
		前年比	貿易・サービス収支		所得収支	前期比	貿易・サービス収支		所得収支
			前年比	貿易収支	所得収支		前期比	貿易収支	所得収支
06	1-3月期	18.5	▲ 13.5	▲ 28.2	42.0	▲ 4.9	▲ 10.5	▲ 9.4	4.1
	4-6月期	▲ 3.0	▲ 24.5	▲ 17.4	15.8	▲ 7.2	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 2.2
	7-9月期	11.4	6.0	▲ 0.1	17.6	4.6	5.3	1.0	3.6
	10-12月期	6.4	13.6	12.1	6.3	19.9	56.2	38.0	1.5
07	1-3月期	23.6	45.7	51.9	12.1	▲ 1.6	▲ 2.4	2.6	1.0
	4-6月期	41.9	53.6	36.0	32.1	16.5	▲ 2.3	▲ 2.0	25.6
06	7月	5.1	▲ 11.8	▲ 8.3	22.9	3.2	19.9	16.1	▲ 4.6
	8月	21.1	361.8	36.2	11.2	▲ 1.0	4.5	2.1	▲ 3.9
	9月	10.9	6.5	0.2	20.3	▲ 6.2	▲ 39.0	▲ 34.8	12.8
	10月	6.3	▲ 34.1	▲ 18.5	37.0	21.8	83.3	55.1	0.5
	11月	20.8	67.3	48.4	▲ 6.6	6.0	46.4	45.2	▲ 16.3
	12月	▲ 4.7	14.3	15.1	▲ 9.5	▲ 2.4	▲ 23.5	▲ 21.4	19.6
07	1月	43.3	-	-	16.3	▲ 7.4	16.1	21.8	▲ 21.6
	2月	4.1	1.2	2.6	7.3	▲ 17.2	▲ 44.6	▲ 39.0	12.2
	3月	35.7	59.1	60.3	13.2	63.3	104.7	71.0	36.5
	4月	50.3	76.2	34.7	41.5	▲ 4.7	▲ 13.4	▲ 6.9	0.4
	5月	31.1	4.0	1.0	36.6	▲ 2.3	▲ 13.3	▲ 13.0	3.3
	6月	48.4	74.3	56.9	▲ 2.6	▲ 8.1	▲ 7.2	▲ 7.4	▲ 7.9
	7月	4.5	▲ 29.6	▲ 17.6	24.6	▲ 14.3	▲ 13.7	▲ 5.5	▲ 11.7

(出所)財務省「国際収支状況」

## ○7月の経常黒字額は前年比+4.5%

7月の経常黒字額は前年比+4.5%の1兆8,559億円(原数値)と7ヶ月連続で黒字幅が拡大した。米国経済の鈍化を背景に貿易収支の黒字幅は縮小したものの、所得収支の黒字額が大幅に前年を上回ったため、全体では黒字幅が拡大した。

## ○貿易黒字縮小にもかかわらず、所得収支の黒字拡大が全体を押し上げる

貿易収支の黒字額は前年比▲17.6%と、黒字幅が縮小した。輸出は、前年比+11.1%(前月同+16.1%)と前月から伸びが鈍化した。主要地域別(通関ベース)にみると、対EU、対アジアが引き続き高い伸びを維持する一方で、対米国が前年比+1.3%(前月同+6.8%)と伸びが鈍化し、全体を押し下げた。財別にみると、米国向けの割合が高い自動車輸出が大きく鈍化しており、地震の影響で自動車生産が一部ストップした影響が出ている可能性が考えられる。一方、輸入は前年比+16.6%(前月同+9.2%)と伸びが拡大した。ドル建ての原油価格が6ヶ月ぶりに前年比で上昇したことが影響した模様だ。このように自動車販売の不調により輸出の伸びが鈍化した一方で、輸入の伸びが加速したため、貿易黒字額は6ヶ月振りに縮小した。

サービス収支は、「旅行」や「その他サービス」の赤字幅が縮小したものの、「輸送」の赤字幅が拡大したことから全体の赤字幅も拡大した。「輸送」は燃料価格の上昇の影響もあって「海上輸送」や「航空輸

送」の赤字幅が拡大した。

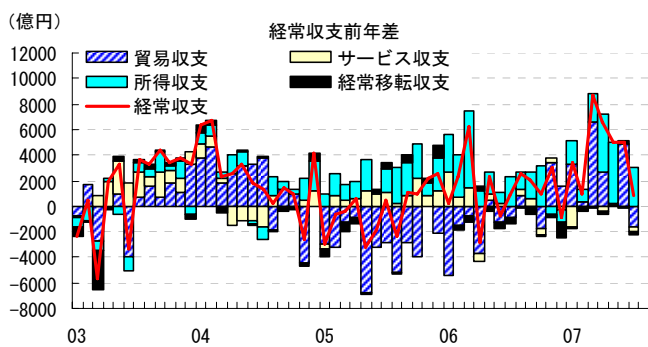
所得収支の黒字額は前年比+24.6%と黒字幅が大幅に拡大した。円安や金利上昇を背景に中長期債を中心に利回りが上昇、「証券投資収益」の「債券利子受取」が増加した影響が大きい。以上のように、7月は貿易収支の黒字幅が縮小したものの、それ以上に所得収支の黒字幅が拡大し、経常収支全体を押し上げた。

### ○経常収支の黒字額は先行きも増加基調が続く公算が大きいものの、リスクも高まる

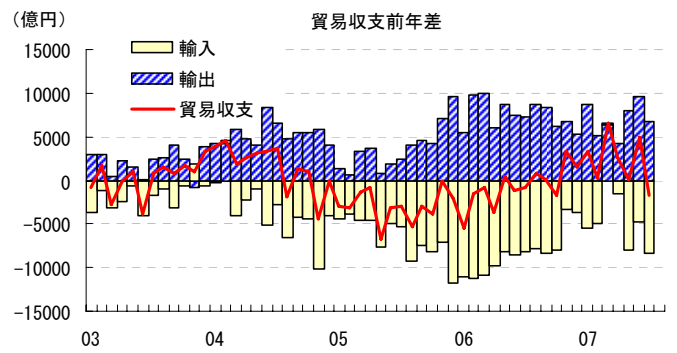
輸出環境を考える上で重要な米国景気は、先行き復調していくことが見込まれる。今後も世界景気は拡大が続く公算が大きいと考えられ、輸出の増勢についても強まってくる見込みだ。また、OPECが2年2ヶ月ぶりに増産を決定する中、サマーホリデーシーズンを抜ければガソリンの需給緩和が見込まれることもあり、原油価格は今後低下してくる可能性がある。原油価格の上昇による輸入金額の増加が続くとは見込み難しく、貿易収支の黒字額は先行きも増加基調が持続すると予測する。

所得収支についても黒字額の拡大傾向が続くことを見込む。今後、急速に為替が円高に振れることがなければ、所得収支の黒字は緩やかながらも増加基調で推移すると考えられる。貿易収支、所得収支ともに黒字幅は拡大傾向で推移するとみられることから、経常収支の黒字額は先行きも増加基調で推移しよう。

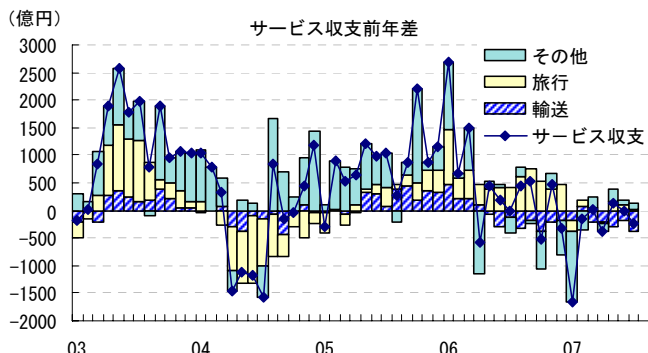
ただし、足元でもサブプライムローン問題に関連する金融市場の混乱は続いており、それが米国経済に影響を与えるリスクは見ておく必要がある。混乱後に発表された米国の経済指標は強弱入り混じっており、金融市場の混乱が実体経済に与える影響を見極めにくい状況となっている。仮に、米国経済が予想以上に鈍化する場合には、輸出の減速を通じて、貿易黒字の拡大が限定的なものにとどまる可能性がある。次回FOMCでは政策金利の引き下げが見込まれるなど、FRBもこうした混乱の対応に動いていることを考えると、現段階では実体経済にまで影響が及ばない可能性の方が高いとみられるものの、今後も注視していく必要があるだろう。



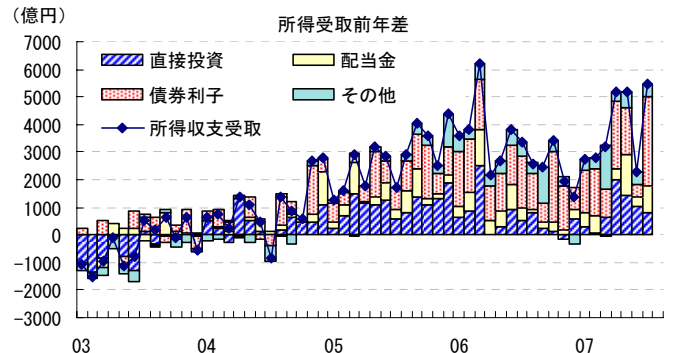
(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」



(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」



(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」



(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。